



マアナゴ伊勢・三河湾 令和7年度資源評価結果

生物学的特性

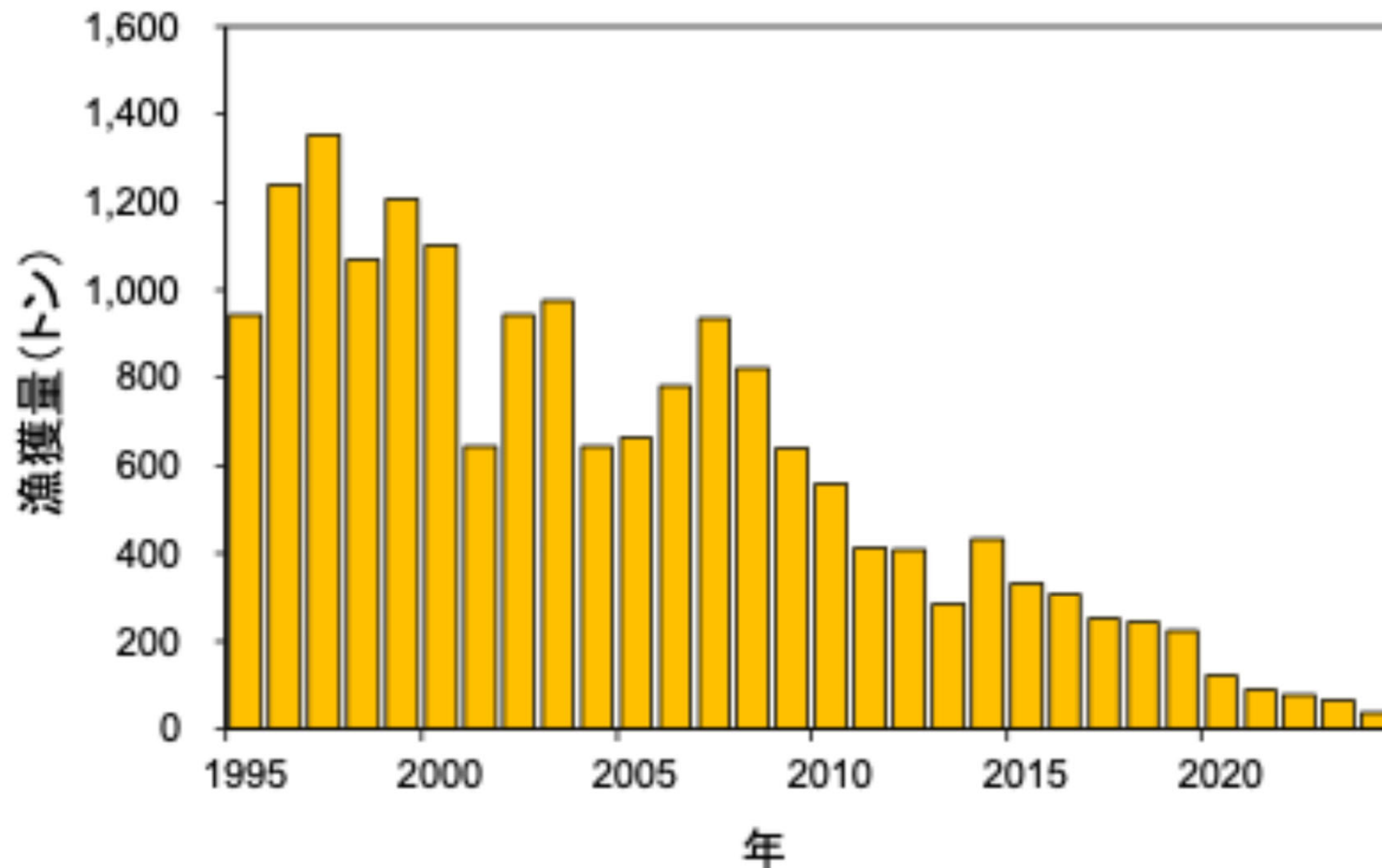


生物学的特性

- 寿命：4歳以上
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：詳細は不明、産卵場は沖ノ鳥島南方の九州パラオ海嶺付近に唯一確認されている
- 食性：稚魚は小型の底生生物、成長につれ底生生物、エビ類、魚類、軟体類
- 捕食者：不明

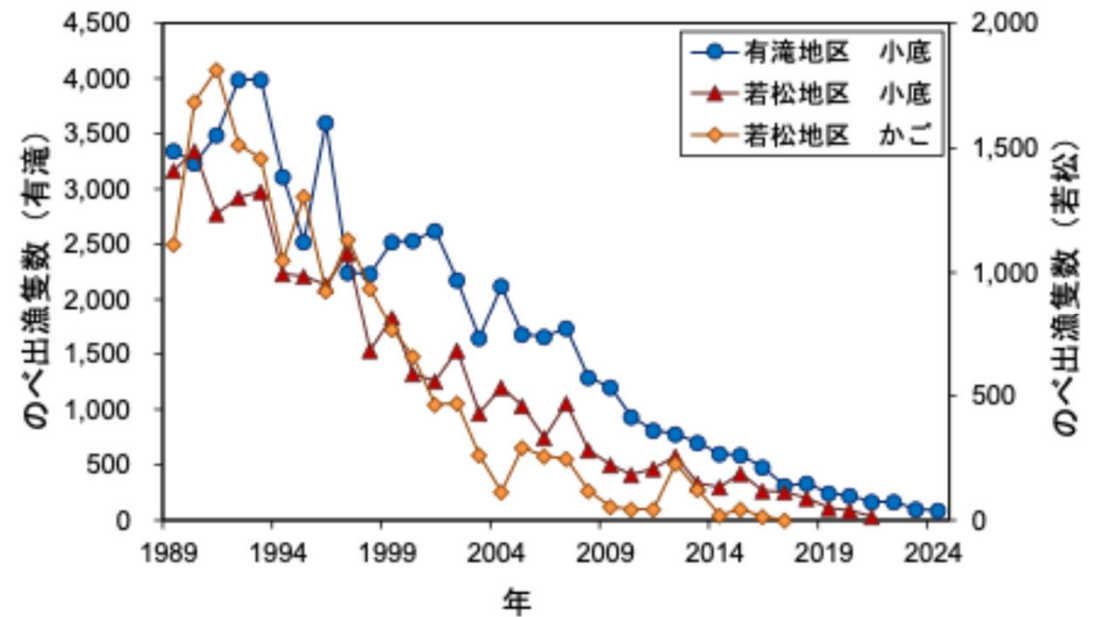
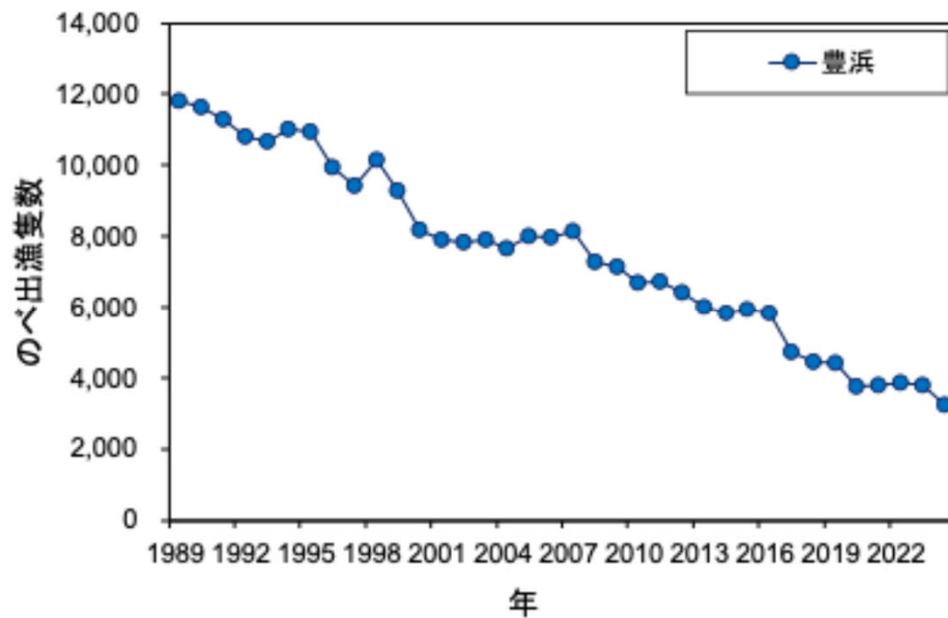
- 外洋の産卵場から仔魚が長距離回遊し来遊する
- 広域にわたる資源の一部

漁獲の動向①



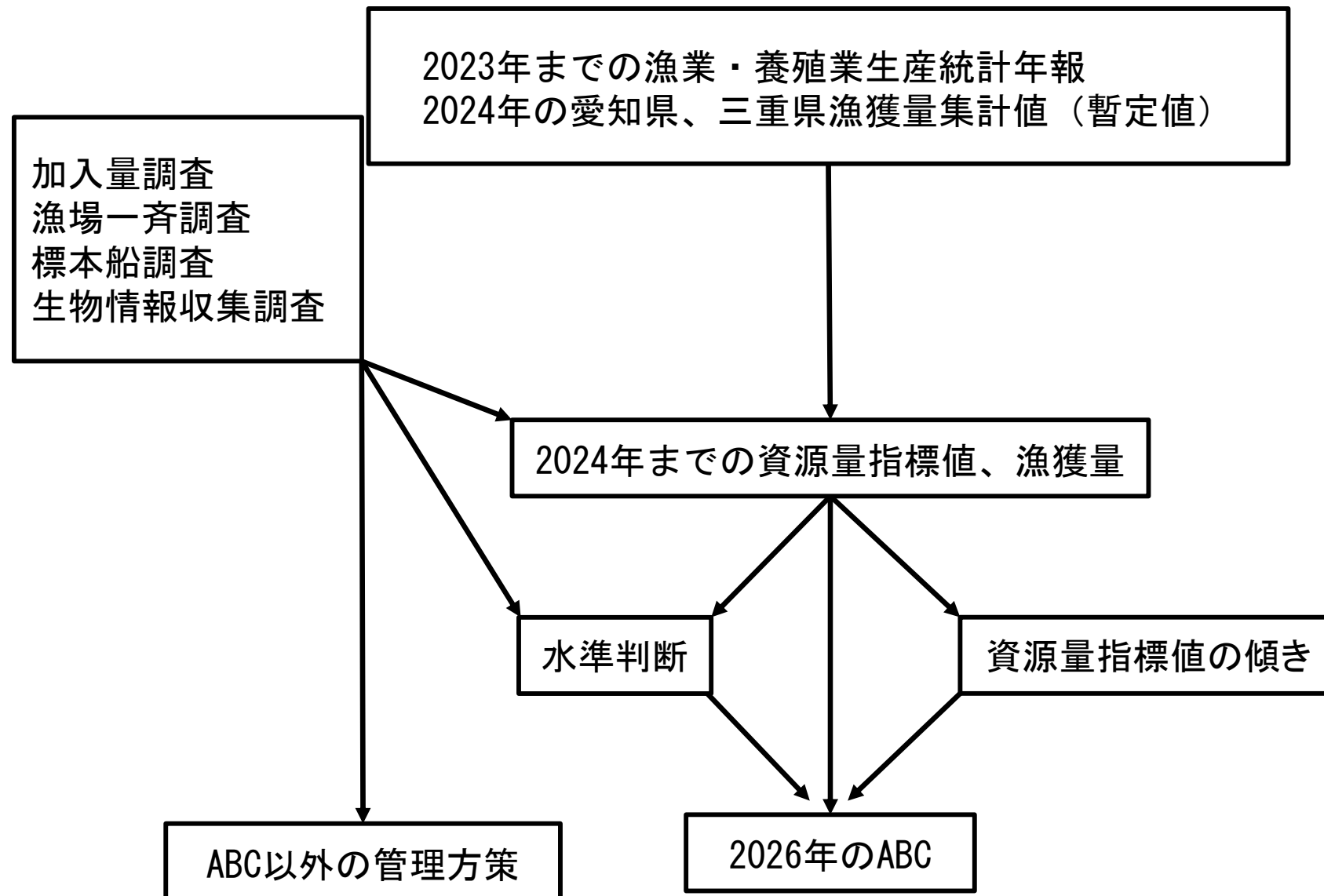
- 伊勢・三河湾では、主に、小型機船底びき網漁業（小底）、かご漁業により漁獲される
- 2024年のマアナゴ漁獲量（伊勢・三河湾内）：36トン

漁獲の動向②



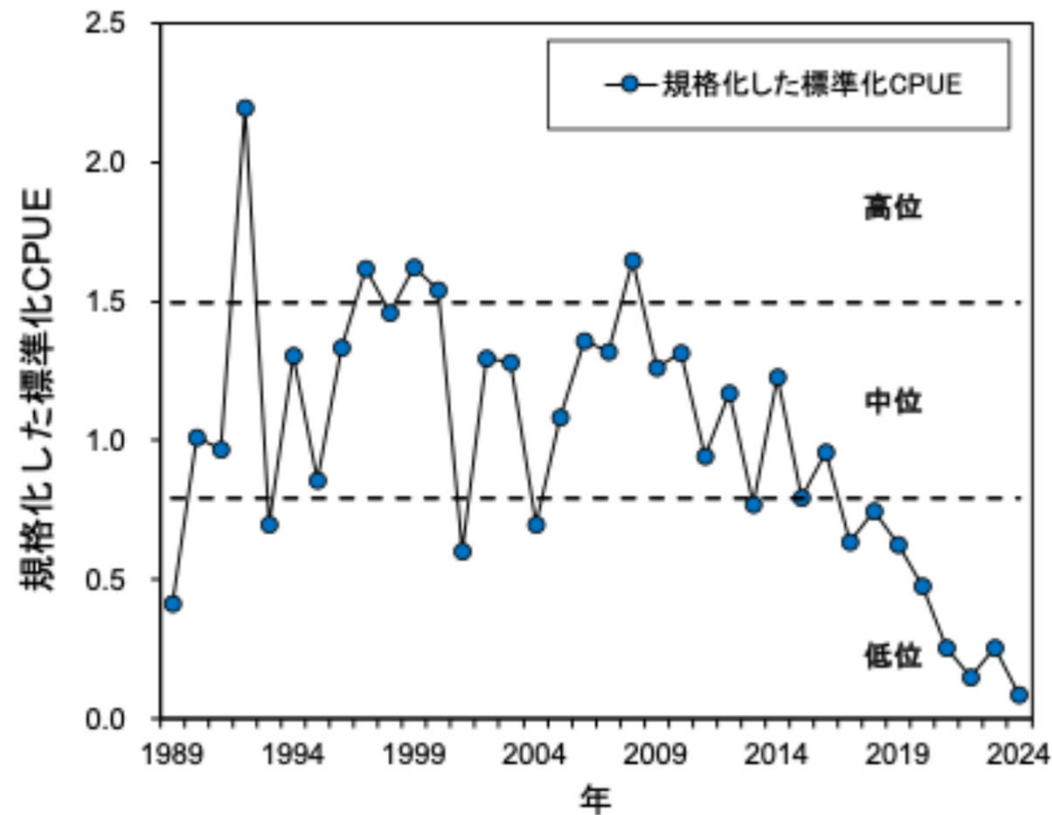
- 努力量は減少傾向にある
- 三重県若松地区では、かご漁業は2018年以降、小底は2021年10月以降操業実績なし

資源評価の流れ



※ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

資源の動向



※水準区分 低位／中位：標準化CPUE 0.79、中位／高位：標準化CPUE 1.50
(標準化CPUEの最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 愛知県・三重県主要港の小底の標準化CPUEから判断
- 資源水準：2024年の標準化CPUEは0.09であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の標準化CPUEの推移から「減少」

※標準化CPUE：港による操業の偏りを取り除いた単位努力量当たりの漁獲量

資源評価のまとめ

- 伊勢・三河湾内のマアナゴ漁獲量は、2024年は36トン（過去最低を更新：2023年から28トン減少）
- マアナゴ伊勢・三河湾の資源水準は低位、動向は減少

2026年ABC

管理基準	Target/Limit	2026年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値 からの増減%）
0.7・Ct・0.82	Target	27	—	—
	Limit	34	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づくABC算定規則の2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7（Caveを用いる場合の低位水準の推奨値）
- Ct : Cave 3-yr（2022～2024年の平均漁獲量）
- γ_1 : 0.82（資源量指標値の傾きから求めた計数）